

経済情勢

(9月の経済指標を中心に)

(全国) 景気は、緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる。

(中国) 景気は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

先行きについては、米国の通商政策の影響、日中関係の動向、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

| | |
|------|---------------------------|
| 個人消費 | 一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる |
| 住宅投資 | 新設住宅着工戸数(9月)は前年を下回った |
| 設備投資 | 機械受注(9月)は、前年を上回った |
| 公共投資 | 公共工事請負額(9月)は前年を上回った |
| 輸出 | 輸出金額(9月)は前年を上回った |
| 生産動向 | 横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる |
| 雇用情勢 | 改善の動きに足踏みがみられる |

(中国)

| | |
|------|----------------------|
| 個人消費 | 持ち直しの動きに足踏みがみられる |
| 住宅投資 | 新設住宅着工戸数(9月)は前年を下回った |
| 公共投資 | 公共工事請負額(9月)は前年を上回った |
| 輸出 | 輸出金額(9月)は前年を下回った |
| 生産動向 | このところ弱含んでいる |
| 雇用情勢 | 改善の動きに足踏みがみられる |

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査（9月）

景気動向指数（全国CI）は、一致指数は3か月ぶりに上昇、先行指数は5か月連続で上昇した。

景気ウォッチャー調査（現状判断DI）は、全国は5カ月連続で上昇、中国は2カ月連続で上昇した。

● 景気動向指数（CI）

(一致指数)

- 114.6 (前月差+1.8 ポイント) と3か月ぶりに上昇。



(先行指数)

- 108.0 (前月差+1.0 ポイント) と5か月連続で上昇。



| 指標名 | 寄与度 |
|----------------|-------|
| 投資財出荷指數（除輸送機械） | 0.37 |
| 鉱工業生産指數 | 0.36 |
| 商業販売額（卸売業） | 0.35 |
| 輸出数量指數 | 0.26 |
| 鉱工業用生産財出荷指數 | 0.19 |
| 商業販売額（小売業） | 0.18 |
| 営業利益（全産業） | 0.13 |
| 労働投入量指數（調査産業計） | 0.00 |
| 耐久消費財出荷指數 | ▲0.02 |
| 有効求人倍率（除学卒） | ▲0.04 |

| 指標名 | 寄与度 |
|-----------------|-------|
| 最終需要財在庫率指數（逆） | 0.57 |
| マネーストック（M2） | 0.37 |
| 新設住宅着工床面積 | 0.28 |
| 消費者態度指數 | 0.16 |
| 東証株価指數 | 0.11 |
| 中小企業売上げ見通しDI | 0.10 |
| 鉱工業用生産財在庫率指數（逆） | ▲0.03 |
| 日経商品指數（42種総合） | ▲0.14 |
| 新規求人数（除学卒） | ▲0.63 |
| 実質機械受注（製造業） | |
| 投資環境指數（製造業） | |

注：1. 景気動向指數（CI）は景気変動の大きさやテンポ（量感）を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指數（速報）」。

2. 景気動向指數とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するためを作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指數、ほぼ一致して動く一致指數、遅れて動く運行指數の3本の指數がある。

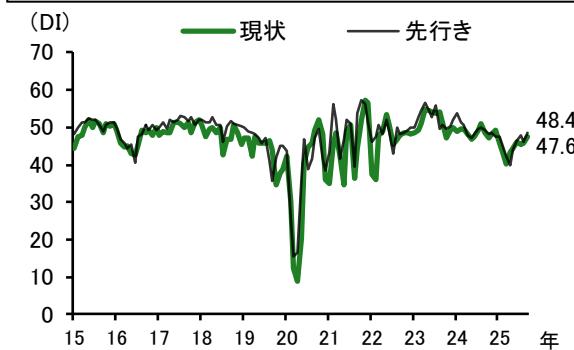
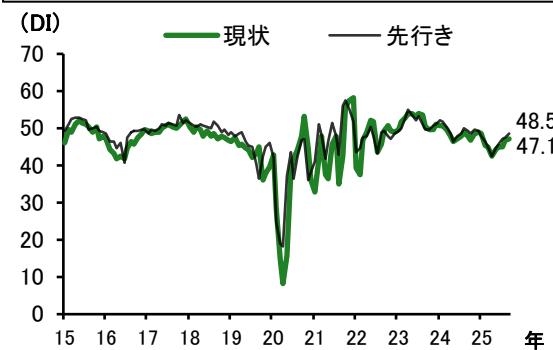
● 景気ウォッチャー調査（DI）

(全国)

- 現状判断DIは、47.1 (前月差+0.4 ポイント) と5カ月連続で上昇。
- 先行き判断DIは、48.5 (前月差+1.0 ポイント) と5カ月連続で上昇。

(中国)

- 現状判断DIは、47.6 (前月差+1.8 ポイント) と2カ月連続で上昇。
- 先行き判断DIは、48.4 (前月差+2.2 ポイント) と2カ月ぶりに上昇。



注：1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とするすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

2. 季節調整値

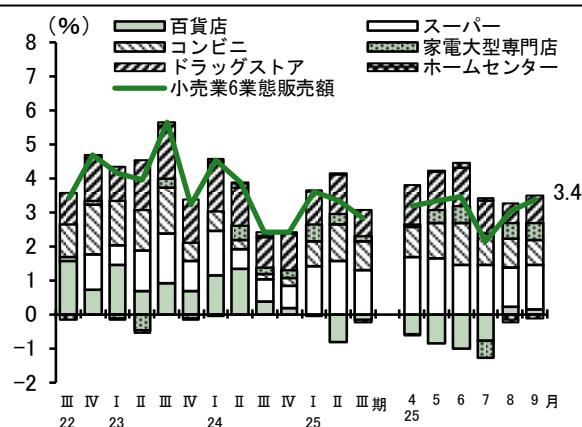
2. 個人消費（9月）

(全国) 一部に足踏みが残るもの、持ち直しの動きがみられる。

(中国) 持ち直しの動きに足踏みがみられる。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

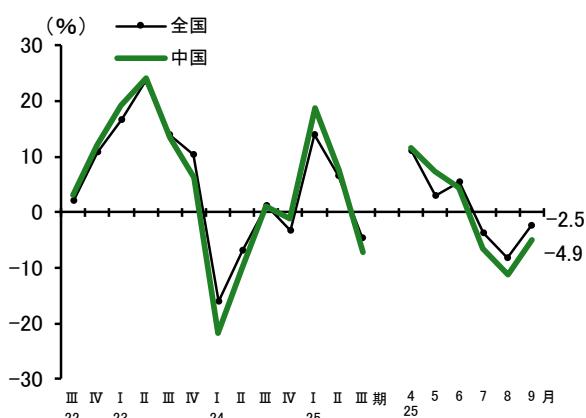
(全国) スーパー、ドラッグストアなどを中心に増加し、46カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.4%）。小売業6業態全体の消費傾向としては、買い上げ点数の減少や安価商材へのシフトといった節約志向がみられるものの、コメなどを中心に食料品価格の高騰が販売額を押し上げている。



● 新車登録・届出台数（乗用車）「対前年伸び率」

(全国) 小型、普通乗用車が減少し、3カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲2.5%)。一部車種で納期の長期化などがみられるほか、新型車の市場投入が少ないとや、新型軽モデル発売を控える一部メーカーで購入の先延ばしがみられたことなどもマイナスに影響した。

(中国) 小型、普通乗用車が減少し、3カ月連続で前年比マイナス(同▲4.9%)。一部車種で納期の長期化などがみられるほか、新型車の市場投入が少ないとや、一部メーカーで購入の先延ばしがみられたことなどもマイナス影響にした。

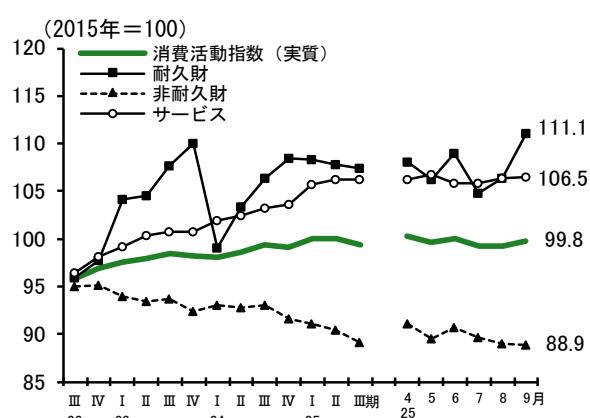


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指數（實質）

(全国)

- ・消費活動指数（季節調整済）は99.8（前月比+0.5%）と、2カ月連続で前月を上回った。
- ・耐久財は、スマホ・パソコンなどの家電が好調に推移したことなどから、前月を上回った。
- ・非耐久財は、衣料品や食料品が低調に推移したことなどから、前月を下回った。
- ・サービスは、飲食業などが低調だったものの、宿泊業などが好調に推移したことから、前月を上回った。



注：1. 季節調整済指数
2. 消費活動指標の形態別ウエイトは、耐久財8.9、非耐久財40.5

2. 消費活動指標、行動意欲の サービス 50.7

3 住宅投資（9 目）

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

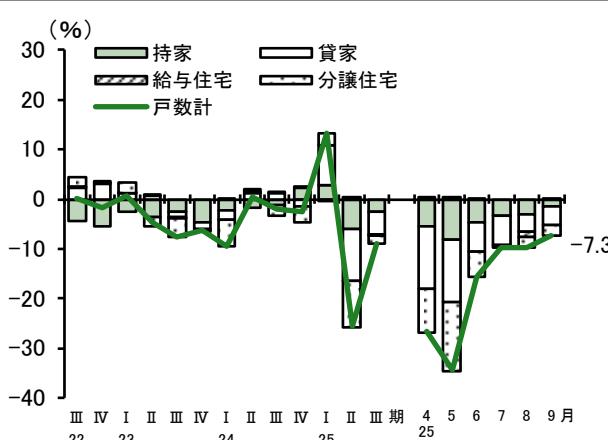
新設住宅着工戸数「対前年伸び率」

(全国)

建築基準法等改正施行前の駆け込みによる影響は緩和されつつあるものの、法改正による審査期間の長期化やコスト増などのマイナス影響が一部にみられる。貸家、分譲住宅、持家が減少し、6カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲7.3%)。

(中国)

全国同様、3月に発生した駆け込みの影響は緩和されつつあるものの、マイナス影響が一部にみられる。分譲住宅が増加したものの、持家、貸家、給与住宅が減少し、5カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲4.0%）。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

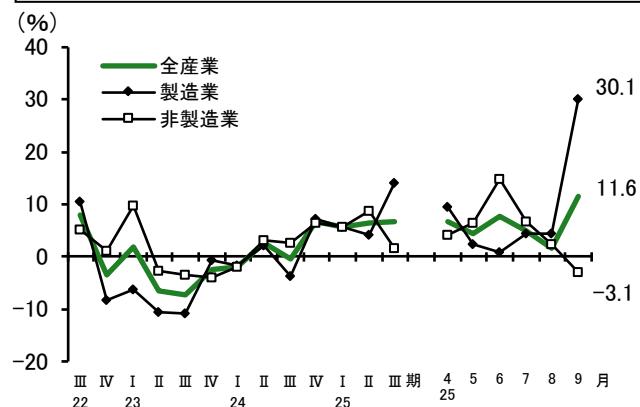
4. 設備投資・公共投資（9月）

機械受注（全国）は、製造業は前年を上回ったものの、非製造業は前年を下回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- 12カ月連続で前年比プラス（前年同月比+11.6%）。
- 製造業（同+30.1%）は、大型案件のあった化学が大きく増加したほか、非鉄金属、はん用・生産用機械なども増加し、12カ月連続で前年比プラス。
- 非製造業（同▲3.1%）は、運輸業・郵便業などが増加したものの、通信業、情報サービス業などが減少したことから、7カ月ぶりに前年比マイナス。



5. 輸出・輸入(9月)

輸出金額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

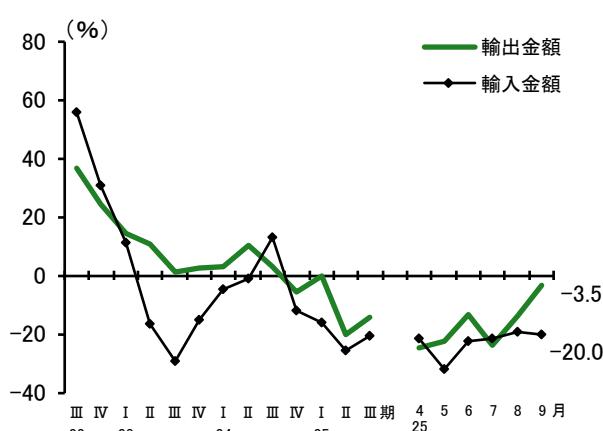
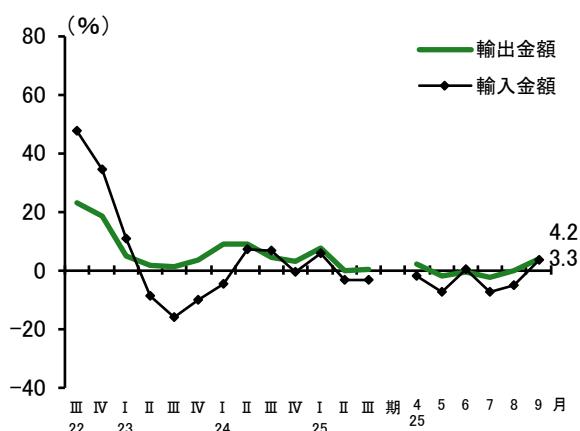
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出金額は5カ月ぶりに前年比プラス（前年同月比+4.2%）。円安への振れ等が輸出金額を押し上げたほか、品目別では、アジア向けの半導体等電子部品などが増加した。自動車は米国向けが低調だったことで輸出金額が減少したもの、アジア・欧州向けが増加したことから輸出数量はプラスとなった。
- 輸入金額は3カ月ぶりに前年比プラス（同+3.3%）。石炭や原粗油などの鉱物資源が減少したものの、アジアからの電算機類（含周辺機器）や通信機などが増加した。

(中国)

- 輸出金額は8カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲3.5%）。半導体等電子部品などが増加したものの、自動車や船舶（貨物船）などが減少した。ただし、自動車は、主力市場の米国を中心にモデル改良に伴う在庫調整が一段落しつつあることなどから、マイナス幅は縮小した。
- 輸入金額は8カ月連続で前年比マイナス（同▲20.0%）。市況価格の下落などに伴い、非鉄金属や石炭などの鉱物資源を中心に減少した。



注：1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報；輸入速報（9桁）
資料：財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

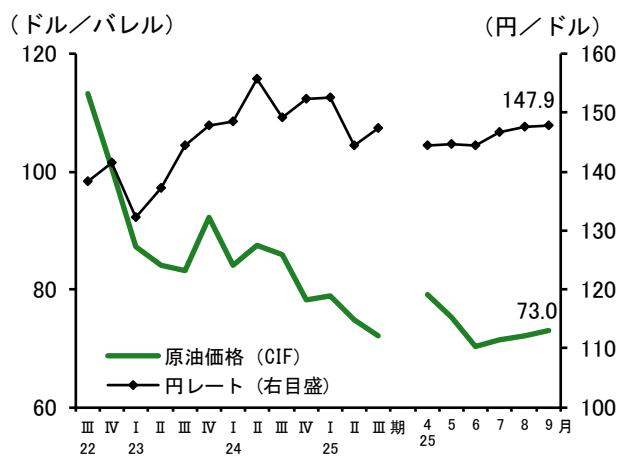
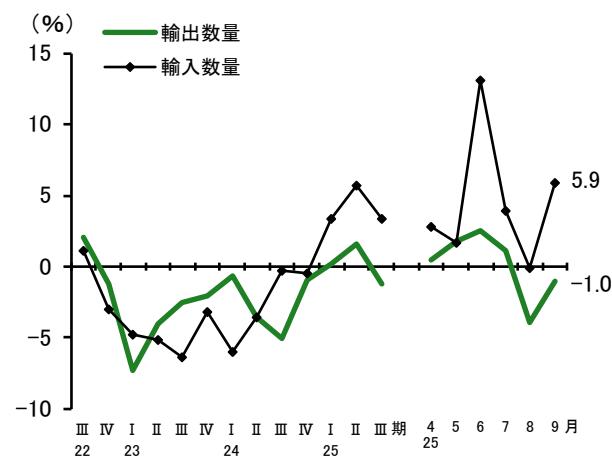
● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出数量は2カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲1.0%）。
- 輸入数量は2カ月ぶりに前年比プラス（同+5.9%）。

● 原油価格・円レート

- 原油価格は73.0ドル/バレルと前年に比べ9.8ドル低下（前月に比べ0.9ドル上昇）。
- 円レートは147.79円/ドルと前年に比べ4.6円の円安（前月と比べると0.3円の円安）。



注：1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報；輸入速報（9桁）3. 原油価格は全日本通関CIF価格
4. 円レートは東京外為市場の銀行間中心レートの月中平均値
資料：財務省「貿易統計」

6. 生産動向（9月）

(全国) 横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる。

(中国) このところ弱含んでいる。

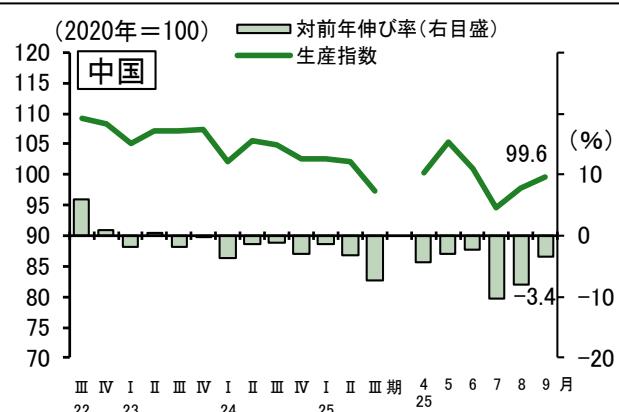
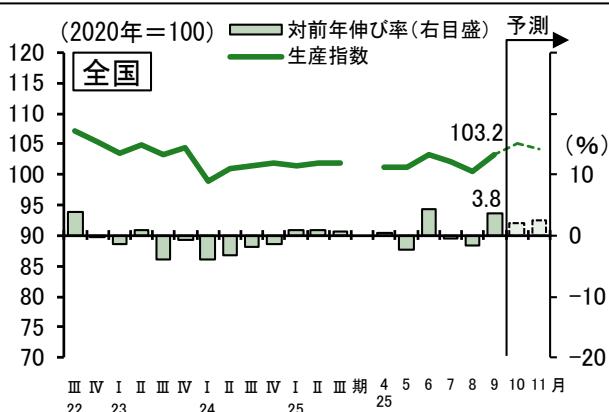
● 鉱工業生産指数（総合）

(全国)

- 生産指数（季節調整済）は、103.2（前月比+2.6%）と3カ月ぶりに前月を上回った。中国・台湾向けに半導体等製造装置の需要があった汎用・生産用・業務用機械のほか、医薬品の増加等により化学が大きく上昇するなど、幅広い業種で上昇がみられた。
- 生産指数（原指数）は前年同月比+3.8%と3カ月ぶりにプラスとなった。

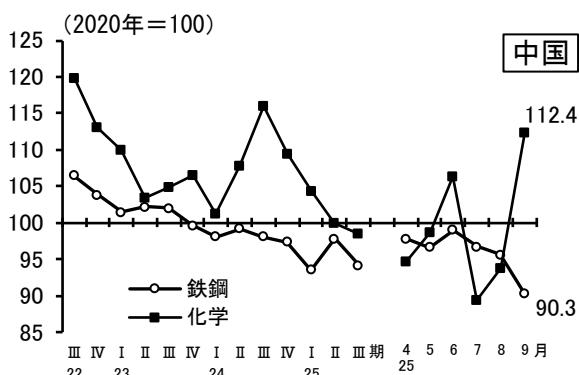
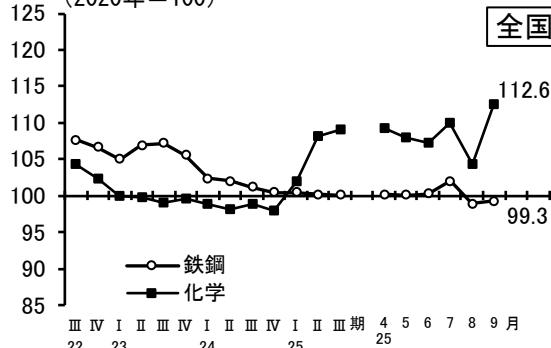
(中国)

- 生産指数（季節調整済）は、半導体等製造装置などの汎用・生産用・業務用機械や、医薬品等が増加した化学が大きく上昇したことにより、99.6（前月比+1.9%）と2カ月連続で前月を上回った。ただし、電気機械、自動車、鉄鋼など主要業種は低下しており、全体では低水準にとどまっている。
- 生産指数（原指数）は、前年同月比▲3.4%と3カ月連続でマイナスとなった。



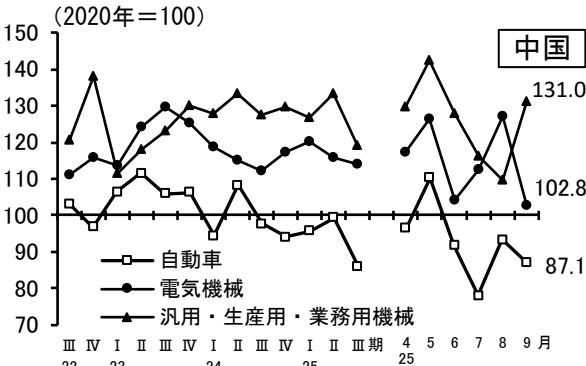
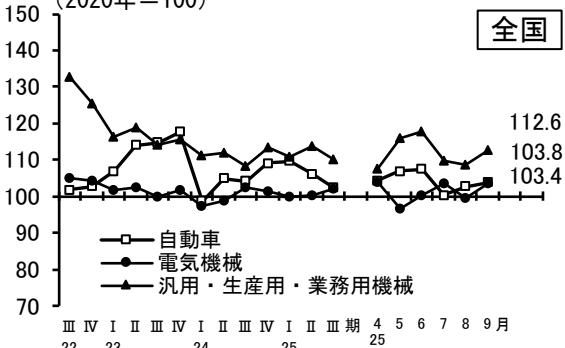
● 鉱工業生産指数（素材）

(2020年=100)



● 鉱工業生産指数（機械）

(2020年=100)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値 5. 全国は2023年4月確報分、中国は2024年1月速報分より、鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された 6. 「電気機械」は全国では1995年基準の業種分類を適用（電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計） 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では「旧分類」はん用・生産用・業務用機械工業、中国では「汎用・業務用・生産用機械工業」 8. 「自動車」は中国では「自動車（乗用車・トラック・主要部品）」

資料：経済産業省「鉱工業（生産・出荷・在庫）指標確認」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

7. 雇用情勢(9月)

全国、中国ともに、改善の動きに足踏みがみられる。

● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

- ・完全失業率は2.6%（前月差±0.0ポイント）と横ばい。
- ・有効求人倍率は1.20倍（同±0.00ポイント）と横ばい。
- ・新規求人倍率は2.14倍（同▲0.01ポイント）と3カ月連続で低下した。

(中国)

- ・7-9月期の完全失業率（原数値）は2.6%と、前年同期と比べ0.5ポイント上昇した。
- ・有効求人倍率は1.36倍（前月差▲0.01ポイント）と5カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.32倍（同▲0.05ポイント）と2カ月ぶりに低下した。

